

東証再編で 何が変わるのか!?

～押さえておきたい市場改革の中身とその影響～

神尾 篤史 大和総研 政策調査部 主任研究員

2022年4月4日、東京証券取引所は、現在の東証第1部、第2部、JASDAQ、マザーズの4市場区分を、プライム、スタンダード、グロースの3市場に再編する。なぜ再編することになったのか。また、第1部全銘柄を対象とするTOPIXはどうなるのか。ここでは、東証再編についての理解を深めていく。

東京証券取引所（以下、東証）は、プライム市場、スタンダード市場、グロース市場という3つの市場区分への再編を2022年4月4日に予定している。また、TOPIX（東証株価指数）の見直しも同時並行で行っており、2025年1月までに見直される。各企業も市場再編やTOPIX見直しに向けた準備を進めている真最中だ。本稿では、市場再編とTOPIX見直しの内容・目的を解説し、最後に再編後の市場の課題について述べていく。

市場再編の内容と目的

今回の市場再編の内容を見る前に、現在の市場構造やそこで浮かび上がってきた問題点を確認する。現在の市場構造は市場第1部を頂点としたピラミッド型となっており、その下に市場第2部、JASDAQ、マザーズという構成になっている。

2013年に東証と大阪証券取引所（以下、大証）が現物市場を統合させたが、企業の負担や投資家の混乱を避けるために、市場構造を維持し、もともと東証にあった市場第1部・第2部、マザーズと、大証にあったJASDAQ（スタンダード、グロース）の4つが運営されてきた。

しかし、この構造や上場制度などの問題点が市場関係者から指摘されるようになり、2018年から東証で市場再編に向けた議論が開始されることになった。

東証における課題

東証での議論では、市場を巡る課題として3点挙げられた。

1つ目は、市場第2部とJASDAQスタンダードの位置付けが重複するなど、各市場区分のコンセプトが曖昧で、多くの投資家にとって利便性が低いということである。

2つ目は、マザーズなどから市場第1部への昇格基準が、未上場